

令和3年度島田市文化芸術推進協議会 議事概要

- 1 **日時** 令和4年3月11日（金） 午前10時30分～午前12時30分
- 2 **場所** 島田市役所 会議棟B会議室
- 3 **出席者**
 - (1) **委員** 松本委員、森澤委員、小栗委員、高島委員、沼田委員、岡村委員、山本委員、片川委員
 - (2) **事務局** 産業観光部文化資源活用課 松本課長、大谷係長、成瀬主事
 - (3) **傍聴者** 0名（まん延防止等重点措置期間中のため非公開）
- 4 **概要**
 - (1) **開会**
 - (2) **会長挨拶**
 - (3) **議事**

○協議事項

- ・ 評価対象事業の抽出条件について
- ・ 評価対象事業の抽出
- ・ 対象事業に対する評価指標の設定

「○」委員からの質問・意見等 「→」事務局からの回答等

→：昨年度の協議会において、各事業の評価指標について、定数的な指標ばかりではなく、定性的な評価指標も設けた方が良いという意見をいただいた。そのため、どのような評価指標がふさわしいか事務局で考慮した結果、全ての事業において定性的な指標を設けることが難しいという結論に至った。したがって、本協議会において、評価対象事業を委員に抽出してもらい、抽出された事業についての評価指標も協議会内で設定することとした。

事業を抽出するにあたり、抽出条件を設定していただきたい。事務局としては、事業費の額を基準としてはどうかと考えているがいかがか。

○：事業費が100万円以上、または200万円以上の事業はそれぞれいくつあるのか。

- ：100万円以上は32件、200万円以上は24件ある。32件から選ぶのは件数が多いため、200万円以上の事業から抽出した方がよいと思われる。
- ：200万円以下の小規模な事業は全く評価しないのか。
- ：全ての事業において評価は行うが、協議会で議論する対象の事業を抽出する。
- ：事業には、継続して発展させていく事業もあれば、始めたばかりで、やることに意味があるという事業もあり、そういった事業はある程度評価しなければ大きな事業に育っていかないことがあるので、規模が大きな事業だけではなく、小さな事業も併せて抽出し、二通りのサンプル事業を作った方がよい。
- ：規模が小さな事業で、市として今後発展させていきたい事業はあるか。
- ：市としては子育て世代の支援に力を入れたいと考えているが、その割には100万円以下の小規模な事業が多い。
- ：高齢者は、その知識等を次の世代に引き継いでいきたいと考えているため、高齢者と幼年・少年たちが交流できる事業が大切だと考える。また、市民文化祭については、参加の窓口をもっと広げ、子供たちが発表できる場であることが大切である。
- ：多世代の交流の場になっているかということがひとつの評価である。各委員に、それぞれが大切だと思うポイントを発言してほしい。
- ：参加人数だけではなく、事業の情報発信に利用したSNSのリツイート件数や評価件数も評価対象とした方がよいと考える。
- ：工業高校の観点から言うと、自分たちが制作したものを文化に持って行くということが難しい。そのため、工業高校強みを生かし、もっと行事に参加できる場が欲しい。
- ：読み聞かせのボランティア数が減少している。高校生や小学校高学年の生徒が読み聞かせを行うような事業があればいい。また、島田市民文化祭では、高校の手芸部等の作品も展示する等、もっと多くの市民が主体的に参加できるようにしてほしい。
- ：参加人数だけで評価を行うと、本当に主催者側が伝えたいことが伝わっているのか不明である。
- ：参加者数だけではなく、認知度等で評価してもよい。一つひとつの事業評価では、その事業がどうか、という評価にしかないのではないので、もうひと段階上の、政策評価というか、多様な文化を地域に育てていくというような評価になるのではないか。
- ：個々の事業は各担当が行い、全体のシティアイデンティティや地域全体の文化度というものは、ワンランク違うフェーズで評価するということか。

- ：そう。そして、市として多様な文化を支援しているということが、そういったアイデンティティの情勢というところでの政策評価であり、特定の文化に肩入れしすぎていない、多様な文化、多様な人々が関わっているか、も評価に当たる。
- ：今回の資料として提出された評価シートでは、各事業で行った新たな取組などが全く見えてこないし、そういった所が知りたい。
- ：官民共同の事業となっているかがポイントである。
これまでの各委員の意見を聞いて、事務局としてどう考えるか。
- ：各委員が挙げたポイントは、全て島田市文化芸術推進計画の各柱に該当する。そのため、各事業への評価ポイントとして、この九つの柱の内容に各事業が該当しているかのチェックさせる方法はどうか。
- ：各事業の担当課は、計画を深く読み込んではいないと思われる。そのため、わかりやすいチェックボックスを作る必要がある。その他に各委員から意見はあるか。
- ：文化の事業に関しては、全ての事業において、もう少し官民の接点が欲しい。
- ：多くの人に知ってもらっているということが、歴史や保存の面でも重要だと思われる。
- ：“知ってもらっている”ということは、どのように評価したらよいか。
- ：諏訪原城の場合は、島田市の公式サイトへのアクセス数により、認知度が向上していると評価した。
- ：良い手法だと思う。
その他、意見はあるか。
- ：大事なものは、地元の人が一生涯懸命になっているということである。そのことを計る指標としては、多くの年代層や団体が事業に関わっているということの評価の方が良い。さらに、その事業がどれだけ認知されているか、ということも大事である。
- ：一つの事業に、複数の施策の柱の内容が該当しているかどうか、複数の目的があるかどうかということも評価したらどうか。
- ：事業を行うリーダーに、どれ程の熱意があるかを評価したい。そのために、「この事業ではこういうことをやりたいんだ」という思いを記載して提出してもらってはどうか。
- ：そういったことを判断するために、間接的になってしまうが、情報の発信力、「いいね」の数等を指標とするのはどうか。
- ：また、熱意のあるリーダーには多くの人々が協力するため、どれだけの人が関わっているかについても評価したらどうか。

- ：コンサート等に来場した客の反応も評価にしたい。
- ：官民共同で事業を実施する場合、よくワールドカフェやファシリテーションのような話し合いは行うのだが、実際に話し合われた内容が実現することは少ない。わざわざ集められるのではなく、自然に人が集まり、事業が行われる方がよい。
- ：委員の皆さんの意見を聞いている中で、評価の視点としていくつかあると思われる。ひとつは、事業そのものの評価と、もう一つはその事業をやるための体勢、マネジメントの面である。この二つを分けて評価した方がよい。
また、イベントには、商品として相手に届ける面と、イベントを作る過程にも価値がある。プロセスを見せることで商品に価値がつく場合もある。そのため、そのプロセスを如何に人々と共有しているかが大事である。
事業とマネジメントという評価と、商品とプロセスという評価という、4つのカテゴリーで評価指標を作ったらどうか。
その中で、事業とマネジメントを評価する上で、「新しいことをやったかどうか」「工夫したかしていないか」を項目として設けたらよい。
また、商品とプロセスを評価する上では、「プロセスにどれだけの人が関わったのか」「イベントそのものに何人来て、どんな層の人が来たか」を数値で計る。プロセスを共有していれば、マネジメントと事業は変わるはずである。
- ：4つのカテゴリーは分かり辛いと思う。それよりも、「団体組織の経営」「文化事業のプロデュース」「マーケティング」の三つの視点で事業を見て、三つの視点それぞれにプロセスを記載させる。
- ：評価させる上で大切なのは、評価項目を提示することで、運営側に「こういうことも考えなければならない」という意識を持たせることである。
- ：定量調査は継続して実施し、そこに工夫した点や、これまでと変えた点などのプロセスを記載させる。その方がわかりやすい。評価指標はそのように設定すればよい。
次回はどうするのか。
- ：本来であれば、今回の協議会で3事業程度評価対象事業を抽出し、次回は抽出された事業の各担当者を出席させ、事業に関する説明をさせる予定であった。
- ：説明させる事業は事務局の選択でよい。
また、計画そのものについては、次回見直しの際に微調整が必要と考える。計画策定時に、あらゆることを盛り込み過ぎたと感じる。

島田市には、掛川市であれば掛川城というような、これといったアイコンがない。島田市といたらこれ、と一言で言えるようなものがない。そのため、次回の見直しでは、計画自体をもう少しわかりやすくし、島田市のアイコンとなるものは何か、考えるべきである。

- ：昔、軽井沢市では、「国際交流都市」と位置づけ、小学生にも授業でその意識を持ってもらうよう努めていた。島田市ではどうか。「世界で一番緑茶を愛するまち」と言うのであれば、小、中、高校生たちにもその意識を持たせ、アイデンティティを育てていくべきである。
- ：島田市は抹茶ではなく煎茶である。さらに、島田市には和菓子屋が多くあるようだが、抹茶向けの華やかな菓子というよりは、煎茶に合いそうな庶民向けの菓子が多い。宿場町のお茶文化という括りで何かできそうである。
- ：煎茶だけだと弱いので、川越し遺跡で和菓子を食べ、煎茶を飲むイベントを実施する等、そういうことを協議会で行いたい。もう少し大きなことをやらないと、会議としてつまらなくなってしまう。
- ：協議会として事業を企画するとなると、来年度は予算の関係上難しいが、それ以降は年二回以上の開催が必要となるが、それは問題ないか。
- ：問題ない。会議のための会議だけではなく、色々なことをやりたい。次回開催はいつ頃か。
- ：5～6月を予定している。

(5) 閉会